

YU ME

夢

長寿園
創立60周年記念
第117号・第118号
合併号

もくじ

母と長寿園	2
創立六〇周年記念祝賀会	
理事長あいさつ	3
一四日記念式典	6
一二日記念祝賀会	8
川柳	11
長寿園の日々	12

長寿園理念

「人生の目的は円満幸福の生活にある」との信念に基づき
高齢者がそれぞれ円満で幸福な生活ができるよう所要の協力と支援を行うことによって社会に貢献します。

【発行所】
一般財団法人 長寿会
小田原市入生田475
TEL.0465-24-0002(代)
発行人/加藤 伸一
編集/「夢」編集委員会

思い出すまま



入居者 久野 純子

私が、長寿園を「終の栖」と決めたのは、二〇年前のちょうど今頃でした。山道を幾度も往復し、小物類を運び終えたのは八月はじめの酷暑のまっただ中でした。つかれ切った私に、周囲の緑が、涼風を送ってくれたように思えます。

「ただ今、猿が来ました。戸じまりを。」との放送も終わらぬうちにB棟の屋上は猿の軍団の賑わいでした。或る時は「猿」のご注意など。すべてが新鮮な驚きでしたし、新しい環境への興味が湧いてきました。数年たった二月、かねてからの

予定通り流星の大群が夜空を埋めつくし見事な天体ショーを見せてくれました。

日々変化する空の色、雲の形などあきる事はありません。長寿園をとりまく自然は私を訪ねてくれる友人達への「お・も・て・な・し」です。

今、陽光の園のあるあたりは丸山公園と呼び折々つれだって散歩や摘み草を楽しみました。近くの川原に出て、職員手造りのおにぎりを頂いた事も懐かしい思い出です。

園内ではいくつかのグループ活動もありました。毎月一回の

倫講と称し、加藤泰純前理事長の講話を聴く会もありました。長寿園設立の信条をはじめ海外(特に韓国)の様子や会津の歴史などを伺いました。一四年の一月一六日、いつも通り私共は講堂に集合し、お待ちしておりましたところ、現理事長が急ぎ来られ、加藤泰純理事長が急死されたとお知らせです。

全員声もなく、席を立つ者もおりませんでした。私共には深い悲しみと、大きな不安が襲いました。しかし、充分熟知しておられる次期理事長が控えておられ、どれ程心づよく思ったことでしょう。

月日は穏やかに流れました。そしてすばらしい六〇周年を迎え今、次なる若き後継者のお姿があつて、いよいよ磐石の思いを強くしております。

平成26年
4月12日・14日

創立60周年記念祝賀会 盛大に開催される!

一生に一度立ち会えるか分からないこのイベントに、プロの業者と連携しお客様をお招きする実行委員会のリーダーとして数か月前から打ち合わせは始まりました。体験したことのない規模の大きさに不安な気持ちでいっぱいでしたが、実行委員の6名と共に打ち合わせと確認を何度も繰り返し行いながら当日を迎えました。当日は雨の予報も嘘の様に晴れ、多くのお客様に園を見て頂く事が出来ました。ご入居者の皆様にもお手伝い頂き、長寿園ならではのおもてなしが出来たのではないかと考えております。当日は170名の方にお越しいただきました。

少ないですが当日の様子と担当して頂いたご入居者、職員のコメントと合わせてご紹介させていただきます。
始めに式典当日の理事長挨拶文と長寿園の歴史をご紹介します。

60周年実行委員長 相談員佐藤

理事長あいさつ 創立60周年を 迎えて



理事長 加藤 伸一

一般財団法人長寿会が運営する長寿園は昭和二九年四月の創立から満六〇周年を迎えることができました。これは偏にご入居者・職員のご理解・ご協力とご来賓はじめ本日ご列席の多くの皆様方のあたたかいご支援の賜でございます。

上げます。

また、小田原市長におかれましては公務ご多忙の中、のちほどお越しいただけるのとこととで、厚く御礼申し上げます。加えて本日お呼びできなかった多くの皆様に対しまして、深く感謝申し上げます。

本日公務ご多忙の中、式典にご臨席賜りました国会議員の方、県会議員の方をはじめ、市会議長をはじめとする多くの市会議員の皆様、公益社団法人全国有料老人ホーム協会理事長、一般社団法人特定施設事業者協議会理事長および加盟の同業者の方々、金融関係や取引会社の皆様、地域の皆様、小田原白梅ライオンスクラブの皆様、そして、ご入居の皆様、同時に職員の皆様に深く感謝と御礼を申し

なお、本日に先立ちまして、これまで長寿園をご利用いただき、天寿を全うされました方々に感謝と安寧を込めたご供養をさせていただきましたことをご報告させていただきます。また、約一四〇名のご入居者も本日一緒に参加していただければよかったのですが、会場の関係等もあり、先行しておとこの一二日土曜日にご家族もお招きして記念行事を行いましたこととを合わせてご報告させていただきます。

できます。

本日、こうして創立六〇周年の祝いを開催することができずのもご来賓をはじめとする本日ご列席の皆様方の長寿園に対する永年のご支援があればこそでございます。

創業以来のご支援者も含めてかくも多くの企業、関係者の皆様方に支えられてきましたことをあらためて厚く感謝し御礼申し上げます。

長寿園では昭和六三年にD棟のオープン式を兼ねて三五周年記念を行いました。



次は五〇周年を祝うところでしたが、創設者の先代理事長が他界した年と重なってしまいました。本年は私が理事長職を引

き継ぎ十年、また、実務について三〇年の節目でございます。この時期に長寿園六〇周年記念式典を行えることは誠に感慨深いものがございます。

美しい小田原の地と共に

さて、簡単に長寿園の歴史をお話しさせていただきます。

長寿園は創業者である父加藤泰純が昭和二九年に創設したわけでございますが、当時は老人ホームという言葉もございませんでした。そこで長寿園は老人別荘と称しておりました。当初は入居者三名からのスタートです。ちなみに老人福祉法が昭和三八年にできて、はじめて老人ホームという言葉が使われたのです。戦後、アメリカ式家族観が入ってきたことにより、戦前までの老親扶養の形態が一部で崩れ始め、経済困窮者は生活保護法で対応されましたが、経済的にある程度自立可能な方への生活支援策はほとんどございませんでした。特に高齢者は財

産だけでは暮らしが困難なことから、有料で高齢者にふさわしい生活環境を提供しようという事になったのです。

どうしてこの小田原の地を選んだのかということですが、風光明媚で気候温暖、交通の便も比較的よいということと土地を提供してくれるという篤志家があったということからでした。

ところが場所は現在地よりもさらに一キロメートルほど登った山の中でした。



昭和29年 長寿園

自宅兼用の建物は山荘風で当時としてはモダンでしたが、煮炊きはかまど、水は井戸、電気はその年に初めてひかれました。

費用は、二五万円で一生涯面倒をみますというもので、運営形態は入居者より代表が選ばれて一緒に物事を考えるという種の契約による大家族のようなものでした。今では、残存能力の活用だとか、個人の尊厳だとか、生き甲斐の創出などと大げさに言われておりますが、それらすべてを自然の形で実践するものでした。そしてそれが長寿園の理念である「円満幸福の生活」に結び付くというものでした。

このことは現在の長寿園におきましても変わっておりません。生活は受け身ではなく主体的なものです。人はよく、先代は先見の明があったと言いますが、当時の平均寿命は六〇歳代で、ほとんどの人が要介護状態にならないうちに天寿を全うしていました。年金制度もない、医療も進んでいない、国も貧しいそんな時代に今日のこの社会を想像することはとても不可能でした。ところが、最初の地はあまりに山奥であったために昭和三二年には現在地に移動しま

した。それから約十年間は木造平屋の長屋風の建物でした。



軽費老人ホーム

そして、昭和四一年に鉄筋五階建てのビルになりました。昭和三〇〜四〇年代の高度成長期になりますと多くのご入居者が経済的に苦しまれる状況になって参りました。年金がなく貯蓄金だけでは、インフレで貨幣価値が下がれば当然です。所得倍増は現役労働者の話で、高齢者は取り残されました。加えて、寿命は年々伸びます。経営も難しくなります。しかし、ご入居者の生活は守らなければならぬ、このころになると、契約などは関係なく、とにかく人

道的支援です。そこで、考えたのが、老人福祉法の中にある低廉な費用で生活できる軽費老人ホームでした。そのために、社会福祉法人を作りました。昭和四十七年です。

多くの人は軽費老人ホームへ移ることで生活が継続できました。しかし、それも束の間、今度は、介護者の問題です。寿命の延びは要介護者も増やしました。経済的問題を乗り越え生活を継続されてきた方々が今度は介護の問題で遠方の特別養護老人ホームへ移らざるを得なくなりました。自前で介護を行うには費用の問題がありましたので、昭和五三年に今度は特別養護老人ホームを作ることになったのです。同時に近代的な現在のA、B棟を作りました。また、高齢者の生活には不可欠な医療への対応として診療所も開設しました。

それから約十年後、昭和六二年には折からのバブル景気もあり、A、B棟が満室になったので新棟D棟の建設に着手しました。

しかし、昭和五〇年代には、有料老人ホームや軽費老人ホーム、特別養護老人ホームが一箇所にあることをコンビネーションシステムと呼び、国が推奨していたのに、一般の特養待機者が増えるにつれて有料老人ホームから特養へ移動することが事実上不可能となり、しかたなく自室介護で対応していましたが、介護保険制度が始まると同時にC棟介護棟を開設して今日に至っております。



今日の長寿園 全景

「円満幸福」の 追求の信念のもと

創業以来六〇年の間、長寿園の運営はご入居者と二人三脚で

歩んでまいりました。長寿園の運営理念は、「円満幸福の生活」を支えることですが、ご入居者は受け身ではなく主体的に生活されてまいりました。ご入居者自身で企画運営されるものが数多くあります。これは他に類を見ないものではないかと思っております。

また、職員も同様に長寿園の運営に主体的に関わっており、各種研修や勉強会も自主的に行っております。昨今は二〇代や三〇代の若者の力量が問われておりますが、ここ長寿園においては大変な戦力になっております。これらは当園の誇りでもあります。この場をお借りしてあらためてご入居者並びにご家族様と職員各位に感謝申し上げますと存じます。

長寿園の歴史は戦後の日本の高齢者福祉の発展の歴史と重なります。長寿園がなぜ今日まで続いてこれたかという質問への答えは、おそらく、営利を追求せず、そこに暮らす高齢者の円満幸福を願って、変わりゆく

社会情勢に合わせて順応してきたからではないでしょうか。

一種の社会事業のようなものでございます。今日では高齢者人口の増加に伴い、実に多くの様々な高齢者の住まいが登場しております。そのような中においても、長寿園は、これまでどおり、自立の方がお住まいになり、主体的なご生活をされ、それが少しでも長く続くように支援させていただき、やがて介護が必要になっても、その方らしい日々が送れるようなサービスを提供してまいります。さらに、この理念の実践が将来にわたっても途切れることのないように、次代を担う職員を育てていきたいと思っております。長寿園の理念に裏打ちされたご入居者、職員の円満幸福の達成が社会福祉の進展に寄与するものと信じて、この六〇周年を機に、一〇〇周年に向けて、今後とも、邁進する所存でございます。旧に倍するご支援ご鞭撻をお願い申し上げて挨拶いたします。

4月14日(月) 170名のお客様をお迎えした 記念式典



プログラム

記念式典
開会の辞
園歌斉唱
理事長挨拶
園章披露
記念品贈呈
(和の会より 記念額)
理念額贈呈
(職員一同より 理念額)
来賓挨拶
永年勤続者表彰
感謝状贈呈
(功労業者)
閉会の辞
記念パーティー

受付

一四日の式典は入居者、職員すべてが一丸となってご招待者をおもてなしました。当日の担当者の様子をレポートします。



受付の様子

予想はしていましたが、当日は多くのお客様で大変に混雑した受付でした。その中には普段作業服姿しか拝見したことのない方々の、背広姿でカシコマツテいらして下さった姿を拝見して、私達にとっても新鮮で楽しいことがたくさんあった祝賀会でした。

事務所 竹井菜美

式典

式典にはたくさんのご来賓から、あたたかいご言葉を頂戴しました。



(公社)全国有料老人ホーム協会 理事長 福山宣幸氏



加藤憲一 小田原市長

立食パーティー

三五周年以来の立食パーティーは、A棟食堂を大がかりに設営し、いつも見慣れていた食堂からは想像できないほど様変わりしました。弦楽四重奏の生演奏を聴きながらの立食パーティーは、優しい音色に包まれ、各界の皆様同士で会話が弾み楽しそうでした。グリーンハウスさんが腕をふるっての和洋折衷のお食事にワインなどのアルコールも進んだ様子で、笑顔がいっぱいの会場になりました。

管理栄養士 長谷川晴美



(一社) 全国特定施設事業者協議会代表理事
市原俊男氏による乾杯発声

園内・館内見学

■長寿園文庫



図書館

どんな本を読んでも、何か心をゆさぶる「一言」に出会えたら、脳の活性化につながります。きょうも、その「一言」の為に読書をおすすめします。先人からの贈り物、現入居者の方



立食パーティーの様子

からの御寄付、長寿園文庫は私たちの共通の心の糧です。

担当していただいたご入居者
望月文様・林義枝様
吉田久江様

■お茶室



お茶室

福岡や神戸からもおみえのお客様に小田原のお菓子で一服さしあげました。

担当していただいたご入居者
竹中糸子様・岡田和代子様
田川富子様・加藤テル様
伊澤芳江様

■歴史館・作品展

歴史館は昭和三〇年代の小田原の様子に分かる写真と長寿園の歴史を照らし合わせながら当時実際に長寿園で使用していた物を展示。市内の歴史資料館に

足を運び資料選びから開始した作業は困難なものでしたが、サブチームのメンバー全員が力を合わせ前日の夜九時に完成。当日は、大勢の方が足を運んで下さり、珍しい品々や、ご入居者の多様な作品を見て大変驚かれておりました。

課長 大川律子



■DVDルーム

月々の行事をまとめたDVD上映を致しました。来園された方々が「毎月何かやっていらっしやるのですね」「行事の数が多いですねー」と感心されておりました。私たちはあたりまえに行っていたので、「多いのか」と改めて思い、少し誇らしく感じました。

生活課 國分花純

4月12日(土) ご入居者の皆さんと作り上げた 記念祝賀会



大ホールでの食事会

プログラム

記念式典

開会の言葉

園歌斉唱

理事長挨拶

入居者代表挨拶

園章披露

記念品贈呈

(和の会より 記念額)

理念額贈呈

(職員一同より 記念額)

永年勤続者表彰

閉会の言葉

記念食事会

記念アトラクション

植樹式

四月二二日。 ご入居者と共に祝った 祝賀会

六〇周年実行委員会

当日を迎えるまでに様々な取り組みがありました。立ち上がったのは平成二四年…六〇周年企画委員会を軸に七チーム。

一年が過ぎ具体的な内容が決まって来ましたが、アトラクションで誰を招くのか？食事は？式典の演出は？まだまだ課題は多く残っていました。

平成二五年十月、六〇周年実行委員会が発足。各チームの足並みが揃い始めいよいよ正念場。注文していた物が続々と届き、長寿園が六〇周年一色になり始めました。

…その頃ご入居者の皆様は、和の会役員の方が中心となり記念額作成の為、署名活動が行われました。食堂や大ホール、C棟など上へ、下へ大忙し。そして職員からは理念の額。書道や真鍮彫り、木彫りなど様々な可

能性を試行錯誤。職員も右へ、左へ大忙し。

実行委員会では具体的な演出が決まり台本の作成、リハーサル。作品展、歴史館も詳細が決まり始動。園もカーテンの洗濯から床のワックスがけ、窓の清掃などちよっとしたお色直し。

そして当日…理事長の挨拶から長寿園創立六〇周年記念行事がスタートしました!!

創立六〇周年を記念して新たにデザインされた園章の披露。高齢者がそれぞれ円満で幸福な生活ができることを願って円・球・丸のデザインで、長寿園の理念である「円満幸福」を表しています。

次はいよいよ記念品の贈呈。全紙にご入居者皆様の寄せ書き。

中心部には「祝 創立六〇周年 魂の故郷 長寿園 永遠の



図章

安泰を祈ります」とのメッセージが込められています。

そして職員代表より理念額の贈呈。寄木細工の額に入った銅板に理念を彫り込んでいます。

それまで「円満幸福」の理念、哲学は様々な形で表現されてきましたが、平成一九年に当時のご入居者で元小学校校長の小川教雄氏により、統一した新たな物がつくられ、正式採用となりました。



記念額



理念額

そして無事式典の部は終了。記念食事はA棟食堂、C棟多目的ホール、大ホールの三カ所で同時開催。試食会を何度も重ね当日を迎えました。グリーンハウスさんからの人蔭や大根を使って出来た海老や鳥に驚き写真を撮るご入居者の方もいらっしゃいました。



記念アトラクション「おめで鯛造」さんによるお祝い芸から始まりました。大きな笑い声が大ホールをつつみました。そして「江戸家猫八」さんによる動物声帯模写。一斉にカメラを構える皆様。最後には握手をして頂くご入居者の方もいらっしゃいました。



勤続表彰の医師と職員
左 長尾忠美診療所長 勤続三十四年
中央 楠元ヘルパー 勤続三一年
右 吉田看護師(課長) 勤続二九年



永年勤続者表彰



C棟(介護棟)食堂での会食



グリーンハウスさん手作りの鶴の大根細工で
テーブルが華やかに

記念食事会



場所を変え記念植樹式。ご入居者の皆様から頂いた枝垂桜を正面玄関脇に植樹しました。
理事長、和の会代表船場様のお手植えが終わると、参加して下さった皆様にも協力して頂き無事に植え終わる事が出来ました。



記念植樹式

作品展

歴史館横では皆様からの作品をお借りし作品展を開催。なかなか良い展示方法が決まらず前日夜九時まで残り準備しました。

多くの皆様のご協力とご支援があり、誰も経験したことのない大きな行事を終えることが出来ました。

平成二四年から準備が始まった今回の六〇周年記念行事ですが、過ぎてしまえばいつも通りには流れます。



思わぬ出会い

江戸屋猫八師匠の妹さんの小学校の時の担任の先生がご入居者の田川様、その時の父兄は先代江戸屋猫八師匠、思わぬ出会いで昔話に花が咲きました。

しかし、園章や理念など改めて形に表した事により、今後益々躍進していく長寿園をよろしく願います。



川柳

「健康・医療」

入居者の部

何だって食べていいよと

言うカルテ

山下 君子

三分の診察を待ち疲れ果て

竹中 糸子

アペノミクス

おいてけぼりになる患者

田中 和子

寝る時も起きる時にも

ドッコイシヨ

鈴木 恒吉

立つ座るよいしよイシヨで

今日も無事

雨宮 彩織

余命など考えている

ただの風邪

青木 千代

ドクターは

いつも加齢で片づける

小池 怜子

予報より

腰が雨だと言っている

田川 富子

職員部の部

点滴のリズムに戻る妻の笑み

加藤 翔

健康課

レントゲン

肉付きまでは写さない

ダイエットメニューは

いつも明日から

健康の指導

人ことなら言える

医師と目が合うと

血圧上がり出し

「自由」

入居者の部

齢だなあ

夢の中でも捜し物

山下 君子

強そうでもろい

私の泣きどころ

竹中 糸子

人波を包む古木の花吹雪

田中 和子

車窓見て

我が人生をかえりみる

鈴木 恒吉

壊れてた血圧計に脅かされ

雨宮 彩織

花散つて時の早さに惑う日々

青木 千代

あら居たの

なんて言われたのは昔

小池 怜子

団塊の世代 桜も高齢化

田川 富子

職員部の部

笑顔から力を貰う

デイルーム

原 ます子

入生田の猿

アポ無しでくる怖さ

原 ます子

手加減を心掛けてる

子の簾

大川 律子

スランプの子へ

それとなく褒め言葉

大川 律子

平成に我慢教える難しさ

大川 律子

平成も千年後には時代物

椎名 賢一

傘さして

ランチ届けてくれた孫

杉本 久子

健康課

何よりも生き甲斐になる

子の笑顔

疲れ飛ぶ天使のような

子の寝顔



長寿園の日々



運動会

- 三月三〇日 お茶会ほっとサロン
- 四月 二日 花見バイキング
- 一二日 創立六〇周年記念祝賀会(内部)
- 一四日 創立六〇周年記念祝賀会(外部)
- 五月 一日 母の日の集い
- 一七日 春の運動会
- 二一日 行楽ロングコース
- 六月 四日 行楽ショートコース
- 七日 テーブルゲームデー
- 八日 十字町教会歌のプレゼント
- 一五日 父の日の集い
- 二九日 七夕飾り付け



C棟行楽



母の日の集い



枝垂れ桜まで散歩



サファリパーク



運動会



お茶会



父の日の集い



ロングコース 芝桜祭



テーブルゲームデー

編集後記

長寿園は今年四月に六〇周年を迎えました。一年前より、六〇周年を記念したプレイイベントを行ったり、記念誌の編集や祝賀式典の打ち合わせなど、スタッフが一つとなつて様々なことに取り組んできました。また、ご入居者の皆様にもご協力いただき、成功を収めることができました。ありがとうございます。

理念にもある「円満幸福」を念頭に、ご入居者の皆様が長寿園に入ってから良かったと思っていただけように努めてまいります。

「夢」編集委員会

